

## 景観をつくりだす人たち 景観づくりは組織づくりから

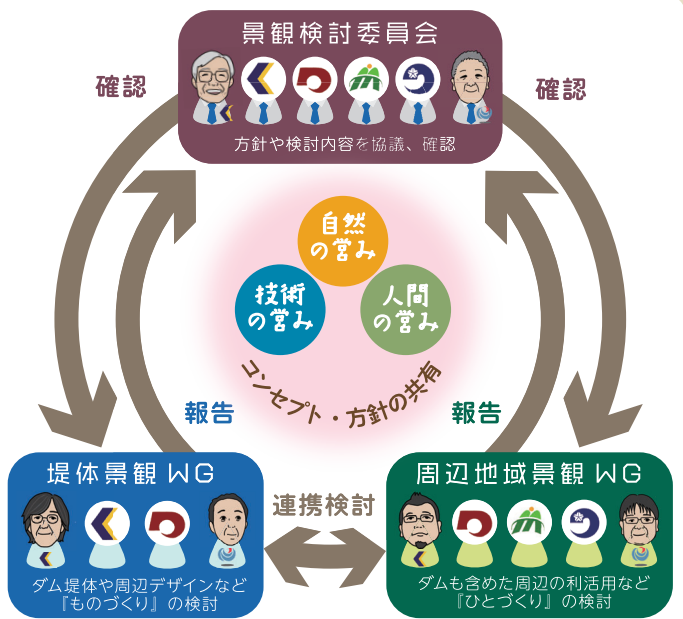
景観をつくりだすのに欠かせないのが「組織づくり」です。具体的な景観デザインを始める前に、組織づくりをおこない、それぞれの役割を明確にしました。

「親」となるのは「景観検討委員会」です。実際に具体的なデザイン検討を行うのは、「子」である2つのワーキンググループ(WG)です。

「堤体景観WG」では、ダム堤体や周辺デザインなど、『ものづくり』の検討を行います。「周辺地域景観WG」では、ダムも含めた周辺の利活用など、『ひとづくり』の検討を行います。

2つのWGで検討された内容は、景観検討委員会に報告され、協議、確認されることで、デザインへの反映へとつながっていきます。

このように、それぞれの専門性を活かし、尊重しあうことで、よりよい景観が作りだされます。



## 景観カルテ 景観づくりにおいて欠かせないもの

### 景観カルテは想いをつなぐ

景観カルテとは、一貫した景観づくりの考えのもと、事業をすすめていくために、景観に関する基礎情報、検討内容・検討体制などを取りまとめた引継ぎ資料のようなものです。長期間にわたる事業で、担当者が変更になっても、これまでの「想い」は景観カルテとして引継がれていきます。



### 景観カルテは現場にあり!



現地では、景観カルテ(設計)を見て、施工が進められています。景観検討委員会・堤体景観WGは、現地施工の状況において、施工ステップ毎に現地確認を行い、現地指導や助言を行います。

### 景観カルテは成長する

景観カルテは、計画段階、設計段階、施工段階、管理段階で作成されます。病院の「カルテ」のように、内容は随時加筆され、成長していきます。

## あそ立野ダムってどんなダム!?

### ダムなのに いつもは水をためない!?

あそ立野ダムは、日本でも数少ない「流水型ダム」という洪水調節専用のダムで、常時水を貯めておくことはありません。普段はダムの上流から下流へ水が流れ、河川として連続していることが感じられます。洪水時には一時的に洪水を貯めて、白川下流への洪水被害を軽減します。

### ダムの近くに 天然記念物がある!?

あそ立野ダムの上流部には国の天然記念物に指定されている「阿蘇北向谷原始林」があります。手つかずの原生林が、このような低地の身近なところに残っているのは全国的にも稀です。

### ダムが一番よく見えるのはトロッコ列車から!?

あそ立野ダムのすぐ横には「南阿蘇鉄道」が走っています。実は、トロッコ列車に乗って、立野橋梁からの眺めが、あそ立野ダムが一番よく見えると考えられています。1924(大正13)年に完成した立野橋梁は、推奨土木遺産として登録されています。



完成イメージ

豊かな自然にとけ込み、これからの人々の暮らしを支える、立野らしい、シンプルなダム景観の創出

# あそ立野ダムの景観づくり

**自然の営み**

阿蘇くじゅう国立公園との調和や川らしさの表現

設計・施工方法の検討により、現況の自然環境をできるだけ保全する/積極的な自然復元を図る/自然の川らしさ・ダイナミズムを活かしたデザイン

**技術の営み**

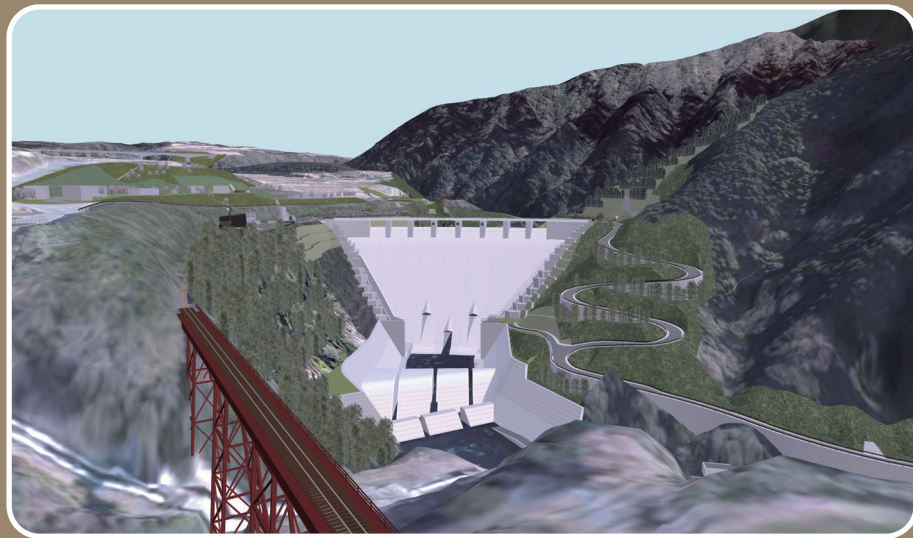
水を貯めない流水型ダムである特徴を活かす

流水型ダムの特徴である「河川が連続していること」を意識できるデザイン/いつも見えている上流側壁面のデザイン性を向上させる/ダム軸の曲線を重要な景観要素の一つとして位置づける/オンリーワンのシンプルなダムを造る

**人間の営み**

阿蘇観光の玄関口に相応しい景観形成

立野ダム特有の見られ方を活かした心に残るダム景観の演出/観光利用・地域活性化を念頭に置いた長期的な景観づくり/周辺の土木構造物との相補的なデザイン



下流から見たダム

✦ 選りすぐりの6つのポイント ✦



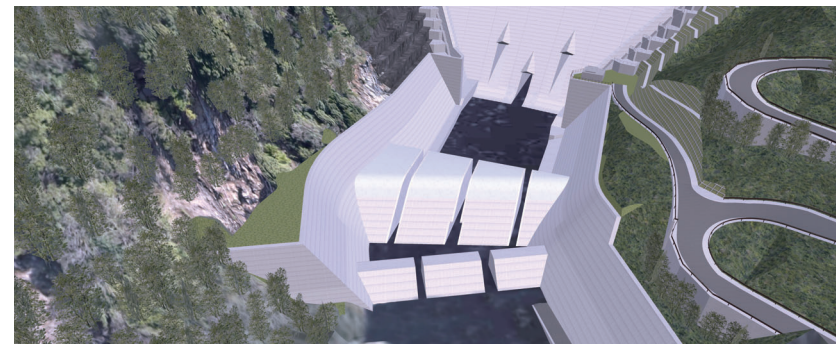
上流から見たダム

✦ 1 ✦ ダムの上はすっきり、シンプルに美しく ✦



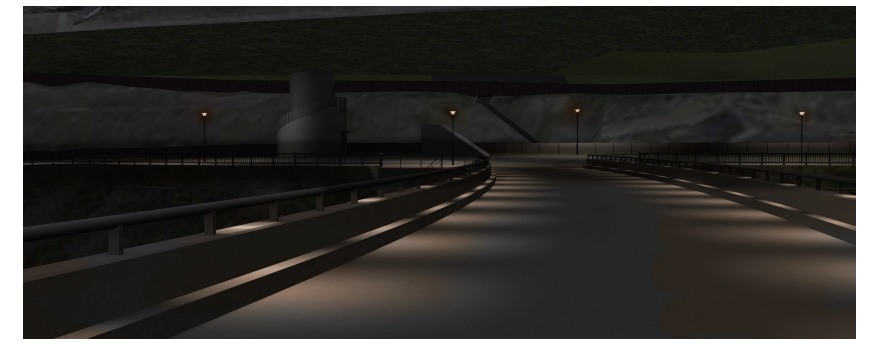
通常のダムでは、中央部にゲートや、保守・点検のための管理用のエレベーターが設置されています。そのためダム堤体の上に、エレベーター昇降用の建物があります。「立野ダム」は水を貯留しない流水型ダムであるためゲートがありません。そのため、エレベーターを中央部に設置する必要がなく、右岸側に寄せて、ダムの上面(天端(てんば))をすっきりとさせることができます。

✦ 3 ✦ 「ダム」というより、「川」を感じられます ✦



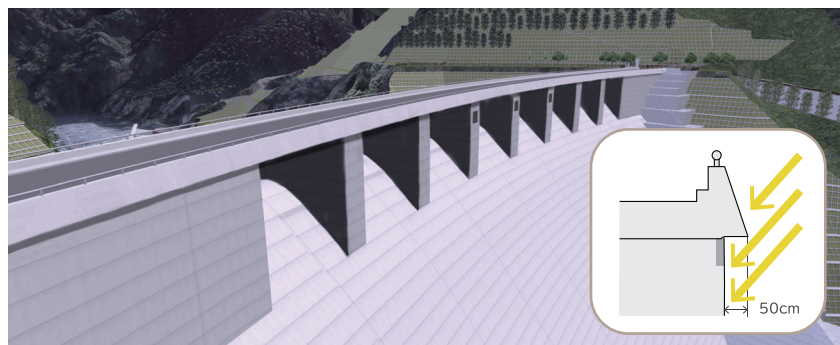
洪水時にダムから放流される水の勢いを弱めるために、ダム下流に小さなダムを設置しています。この小さなダムにスリット(隙間)を設けることで、水を貯めることなく、常に水が流れるようになっています。  
ダムの最下段の放流孔(水が流れ出る所)が元の川と同じ高さになっており、ダムの上流から下流まで水が流れ、「川」として連続しています。

✦ 5 ✦ 夜のダムは優しい光につまれます ✦



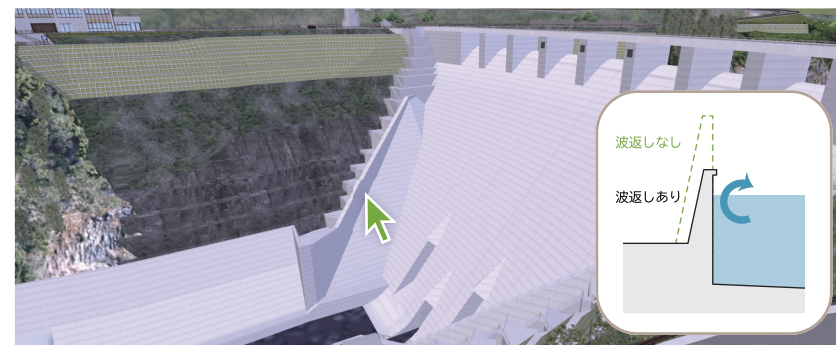
すっきりしたシンプルなダム景観(阿蘇観光の玄関口に相応しい景観)を創出するため、ダムの上部にある管理用天端道路の照明には柔らかな光による癒し効果と、動植物への影響軽減を考え、低い位置に埋め込むフットライトを採用することにより、照明柱によるダム天端の凸凹を無くし、昼夜のスカイラインを創出しています。

✦ 2 ✦ 「影の存在」がいい味だしてます ✦



ダムの上部にある管理用天端道路の道路橋の端部を50cm程度張り出すとともに、下流面に凹凸をつくらず切り欠くことで、余計な線形が生じさせず、影のラインを利用してすっきりとしたラインを創出しています。また、道路には部分的なバルコニーなどは設けず、ダムを上から見た場合の水平性や曲線美の強調を重視し、統一幅のすっきりとしたラインを通します。

✦ 4 ✦ ちょっとした工夫で6mの差!? ✦



ダムの下流面には非常時に越流する洪水をスムーズに下流へ導くための壁(堤趾導流壁(ていしどうりゅうへき))を造る必要があります。壁の上の部分を波返し形状とすることで、直壁に比べて高さを約6m低くすることができました。  
なお、検討にあたっては模型実験による検証を経て決定しています。

✦ 6 ✦ 「これまで」と「これから」も見せます ✦



ダム周辺には、「柱状節理」という溶岩が冷えて固まるときにできる珍しい節理があります。これは今からおよそ5万年前にできたとされています。  
ダムサイトの掘削法面対策としては、元々の柱状節理が存在する景観を活かすため、極力、裸岩をネットで補強する工法により、見せる対策を行っています。それ以外は法枠工+種子吹き付けや移植などによる緑化復元を図っています。